



繪本豊臣勲功記

八編
貳

2209
72



明へ遠 13
2209
72

繪本豊臣熱切記八編卷之二 目錄

賀任宦秀吉赤登長鴻城 属 忠臣悍勇

秀吉之老急を脱して清洲城を出る圖

其二 下城

乞和北畠三臣却瀧川疑属 惑撃三后

信雄疑鬼を生じて三忠臣を斃倒する圖

同図 誓三石

信雄臨向捕秀右招池田属 信輝返彼

伊木清兵衛利と誅むる図

池田信輝父子陷犬山城属 徳変故火

池田勢大山の城を攻陥一更中川清菫を

殺捉る図

繪本豊臣勲功記八編卷之二

東京 櫻澤堂山 刪補

賀任官秀右丞登長鴻城 属 忠臣悍勇

樹と接不必修るをことと制しむ。継家も亦これ不比せんら。

織田家の家督不よく辭ある。秀信とよて継しむるも。

勅らさしむる信孝へ。既不内海不枯旱ぬ。其と北畠信雄不

へ。覺らざるこそ疎忽乃き。備も内大臣平信雄ハ車不不官

位昇進して勢別長鴻不帰城せらる。大臣成の嘉儀を行

ひ。織田家の後居と請待たし。若義と竭して饗應ある

不。城中恰も涌が如し。這義とよつて大坂へも。稟来り乃

る不より。羽柴殿不も賀儀のさめ。近日泰登つりまつる



べき旨返使不報くりりるを。河川密不これと報び。若び佐雄
 と奸勅りりゆ。得がさき八実不時あり。這遭秀吉。市前
 任官の賀と師人と。這地不泰向せり。こを天俸と降をの
 時あり。市前不おひて欺毆不ふ。玉を。手も濡さむして
 大故と亡さん。從兵一端強勅をとも。これらへ憂とまる。不
 らむ。蚤く準備一五ふべ。とて。武勇不覺ある。喪勅解由成
 之。飯田半兵衛直冒不毆を命令。嗚呼不思倭ある。天
 然の智不千里も。監徹。羽柴秀吉。遙不這事と察悟あり。這
 遭信雄率示不官位と昇進せ。へ秀信と未座不つけ。威を
 棄ちんむる。結構不して。別てへ赤儀の響應不准比。我と呼
 倚。殺害せんとの謀計へ。鑑不照て。親が如。然ども。我今長

鴻へ登城せざんべ。美口の傍と脱色ぐ。是切業の妨ふを
 べ。我亦渠が計敷不つ。謀略を用ゆべ。と。加茂清正福
 鴻正刻。斥相且免。取坂安治。併不。市内を命令。らむ。旅の
 小新終あんと。調へ。堀尾右膳と先備と。峰須賀正勝と
 二の隊不立せ。第三番隊へ。市旗本。秀吉。不。當の勇士と撰く
 大将の最後と守護。ささめ。後隊。不。ハ。淺野長政。總勢三
 百有餘人。もつとも。道中。斷と。遠。監所。兵。前後と。窺ひ。日
 路と。怪て。勢。別。ある。長。崎の地。不。忘。玉。ひ。ま。つ。城。外。あり。旅。敵。不
 隠。堀尾。右。膳。と。使。士。と。て。進。品。の。種。と。呈。け。ら。む。殺。時
 主人。羽。柴。秀。吉。登。城。を。べき。旨。師。と。を。其。を。や。と。密。不。報。び
 繞。顧。て。謀。合。せ。置。く。飯。田。半。兵。衛。喪。勅。解。由。と。書。院。の。亞

廊下置置秀吉這不到りなバ翼ありとも遁ハセド。頑
 津と吞て漢菟より別謂羽柴秀吉ハ法度の列ありといつと
 も熱切無類の大將なまバ卑礼をもつて敷待をせ。浅井
 田宮丸其外不も奏者の侍士數十人玄關の式基まで出
 迎へ侍際ちどちく入来る。秀吉香奕より靜く立出率きこ
 り三百餘人と。金門外不留殘し其身ハ山鳩色の長袴と
 新足と揚て歩と移せば。迎侍の勇士十二人右六左六不列從
 して玄關不も掛り。式臺を踏で礼とあせば。浅井田宮丸頭
 と奉て。今般遠きを歌ひ玉を以。慶賀の所登城沛助常玉極
 と。教答をり不秀吉不も。慇懃不返答あると。田宮丸ハ座
 せんと。式袍櫃ひ先不立バ秀吉後段不隨ひつも。長袴の襷と

解裾捌して上小通る。左右不列ある扈從の門と。加後福嶋
 石相眼坂跟と連ねて十二人玄關の上へ奔流くと。褰裳の儘不
 て從來まバ奏詞の面く大不驚き。斯ハ底事ぞや殊忽の舉動
 落居の輩ハ所殿へ登るる。稱をば。下らまよと口く不推止む
 ると耳不も羅む。改去壓去抛毬し。奮然として。睨流し。口
 邊と拂ふる。看えらまバ。若び迎進輩も亦く。事不書院不
 推通り。主人の座より。三三尺席と下りて。列座する。不
 ぞ。飯田も亦も。鞠果悪氣と奪らきて。忙然と。岡田長門
 守出迎え。這態を視て。怖駭き。田宮丸も亦も。不秀吉不
 ち嚮ひ。方僅沛家臣の個く。那般の舉動せらるる。ハ。いつある
 事ぞ。會懷む。ある。待不やと。結札を。秀吉答えて。乃士

曾て存せぬ事あり。趣意ハ渠侪不所鞫おと。宜ふ所の未
 畢らぬ。福嶋正列肩衣聳今日主人秀吉と。任官の賀不
 比較て遠城中へ招がまゝ。其密企ハ所不おひて秀吉
 と繋るべき。礎不注伸こまあり。りるゆ。俺們守護
 もうをあり。斯稟さバ勲切と奢る不似と。俺侪が主人
 秀吉ハ各不も知る。如く。教年の忠勤勤う。最も天下
 不切と預。聊も不忠の不お。あると疎くも内大臣
 殿護臣の詞と信。玉ひ罪なき秀吉と殊せん。石と將
 て殊と碎き。炭と焼て鏡と硝子等。一うるべ。主人ハ忠
 義と專小して。秋毫了失ある。りる。備各くが所不
 存と誤り。主人が身不。不慮の災あり。もやま。んと。禮不ハ

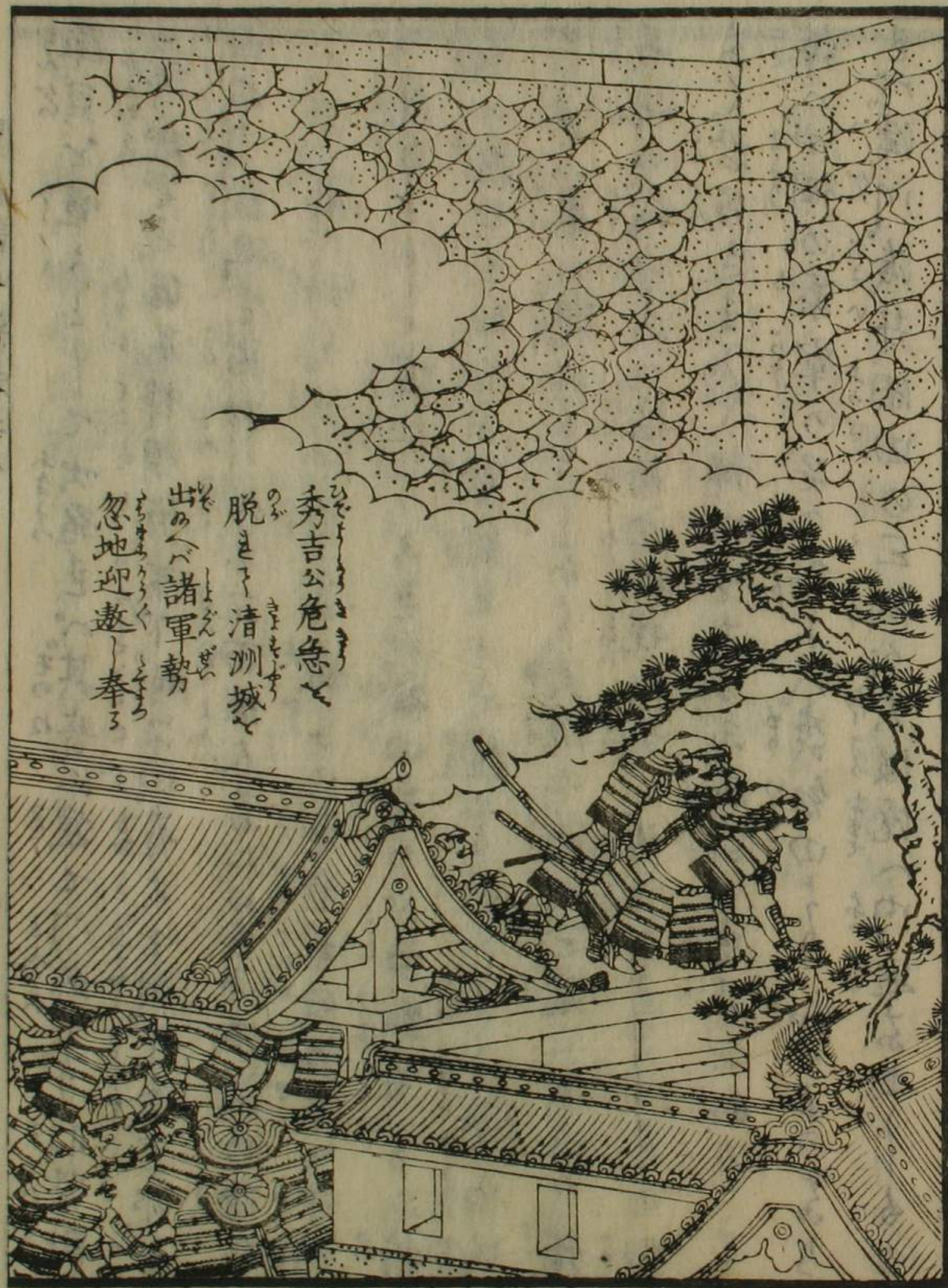
違へと俺們。斯傍辺不看護も。例と空に家貞不較へり。
 斯徳忠義の道とつ。忍ぶが。佐雄公の所茶まで。陪
 傍羅出べり。宜。所沙汰脱さるべ。這矧不も猶思
 召達ある。冥途の陪行。幾万人不もあ。厭ひもふさ。
 所家人と損。まわ。不礼ハ所庸舎あるべ。と。眼
 と腫。拳と握り。四角八面と睨。威氣遍で看へる。
 へ。襖も裂ん。猛相あり。浅井。岡田ハ心中怯き。儲ハ密議と
 何者。内通なせ。と。念不疑。不解。精ま。逆をぬ
 羽と敷待。赤面。座と採。樞。疎。後。廢へ。投
 り。不。預ての謀。遠。飯田。不。振。又。杯。ハ。
 素より。臆病。未練。の信。雄。面。色。變。土。の。像。く。倘。秀。吉。不

豊臣評八續卷之二

ヨ

料面せば。いろある河おや難ぜらまん。唯逢ざるこそ益ありめと。
 怖き却を老臣輩。河と竭して乃理と説。諫愈をまど由。听容
 む。殆くふさふ津川。玄蕃秀吉が前不出て。稟さく。今般遠
 路と津末細ある。条主君布とく。脱悦あつて。蚤即對面あ
 るべき不。撥舎反く。暇取より。俄の所不勞術と辱。養
 生不心配されども。いまど快氣不。おまき。それをへふ。今日
 へ所對面これあく。以。俺們より。く。傳達せよとの令せま
 りと。听も敢む。秀吉直向と。祀奉り。食く。末と。蓆と。踏起
 玄關の廳へ出まへ。津川と。寂三個の。家宰。其外織田の
 后宗輩。猿噪ぎ。祀惑ひ。何といふべき。辞もあくて。脱蹊と。視
 合せ怖在り。羽柴秀吉大喜んで。乃士忠信。義節と。重ト

那般不。臣候。いせ。く。と。臣輩が。不礼不。紛ら。謀略の。漏
 らる。ゆえ。津對面さへ。相稱を。む。い。よ。く。不忠と。あつ。く。秀
 吉。佐雄公への。御奉候も。今日と。限りあり。主君不。逆ふ。乃
 士。不。定で。輕兵と。向ら。ま。ん。り。君臣の。道。と。れ。ば。と。東。ぬ
 て。毆る。道理ある。べ。り。と。天下の。柱礎。不。立。ま。ふ。波。阜。中。納
 言。秀。信。卿の。響。見。と。羽。柴。秀。吉。今。將。容。易。移。ま。て。い。ハ。国
 家の。と。め。よ。ら。く。と。這。上。ハ。佐。雄。公。不。も。戦。場。の。對。面。お。ら
 ん。這。首。よ。ら。く。と。言。狀。あ。ま。と。言。弃。て。出。ま。へ。ハ。加。藤。福。鶴。元
 相。あ。ん。と。異。口。同。様。不。声。振。起。挽。逆。不。忠。の。織。田。家。の。織。臣
 秀。手。が。あ。ま。り。止。り。て。弑。す。死。人。の。山。と。築。て。見。せ。ん。蒐。り。て。見
 む。と。呼。む。る。声。の。暗。号。と。見。へ。く。仙。石。權。名。集。鬮。齋。つ。る



秀吉公危急
脱き清洲城
出の諸軍勢
忽地迎邀奉

上野原の戦い



上野原の戦い

五

陣貝と囃くとして吹奏せしむ。其音不連て門外より。那柴殿
 の御迎せと。堀尾鋒須賀木下神子田青木中村中条宮部小
 西石川後辺生駒叔の僅に三百餘人たぬぬまども。いつの際に
 うら雲霞の如く。沸て出する。教子の軍勢。茶後左右と守固
 め。卓然として退出しりまむ。織田家の臣。脩鞠果も不持
 扇の落るも知らむ。懐然として控る。際も。各々安く出城
 せらむ。一軍の障ありことなから。大坂の城も還らむ。諸
 長鴻の城中に。信雄主從挽の如く。後悔をまども。その切
 なく。君臣さまづく。陣儀をまむ。不。這遭の密事を知りしる
 陣の四個の象軍のその外に。亦飯田より。知るものたあり
 む。津川。淺井。岡田の三個が。大坂境へ内通させしもの

あつんと。忠臣と抗疑しり。最依雄の疵死し。て。妄
 想忽地家國を滅せべき端とありぬ。
 乞和北畠三臣却瀧川疑。属。惑撃三臣
 雀を落と彈丸をもて。響風不を。くとも。あどろ。擒ること
 と得んや。北畠依雄のつづ。不軍を謀て。自身の災を。温出
 せし。自己をも知らむ。他渠をも識らむ。湯をもて。氷を解ん
 と。飲。油を。澆て。野火を滅さんと。まむ。不。彷彿し。然を
 と。不。那柴秀吉。大坂の城。不。還らせむ。ひ。等。困。あ。ぬ。事。あ
 ん。ぬ。ま。む。織田家の。將。を。招き。集め。遠。遭。長。鴻。城。中。の。饒
 蹊。と。獲。禪。叩。せ。先。達。て。波。卓。不。お。いて。信。孝。卿。の。落。没
 ま。す。我。ハ。悔。氣。不。存。む。る。不。及。も。や。北。畠。信。雄。公。挽。舌。の

賜と其志として。浩る所料理す。事と符乃士が身不取て。
 主君不陣向不道理なりき。これと如何とも成べきやうあり。
 各よりりく所料理賜るべし。既先君信長公の所大子あり。
 明智か逆謀柴田が偏執所兄弟ハ不和不して。逆
 と忘きて天下を率ひ。内亂掌て羅網なき不其機會を得て
 法國不ハ奸雄多業絨絳起せんとは。斯内亦不妨げらまつも。
 安民治國の政道と嚴不し。攘邪防逆の征伐と専ありて。
 肝膽を泥不し。神氣を紛不し。思無邪の秀吉今此不して。
 不忠の名を負ん。朽憾さよと。固と吞て宣ひらまは。法將も借
 不獨と惱まし。發不發不至極の理不して。所痛ふ存不し。大
 將平生仁義と専とし。織田家と大持不し。五ふも急法家

貪号命不麾順ひ。自然と所威徳の廣ぐるを嫉之。短慮濃痴の
 信雄公の挙佐。縦令織田家の所運技ありせよ。所家督不ハ
 換ぐし。り不すれ所征伐の事不迄た。俺們所斜を承請
 務肯碎身つらまらん。國家のさめ不し。一を。邪行の君ハ君と
 らむ。周より般を征むる。例風大將然まで御心と困し。めらふ
 不迄むむと。吳口同様不稟し。是ハ。秀吉輦然と面を動かし。
 吾とよ臣として君を戒し。むまは。聖賢ども猶身齋の禱と
 拔むを憐く。バ信雄公の所宏願。和氷より船を泛ぶるの思
 ひこそあま。あし。各深切の念を碎く。遠謀こそ悟ま不
 一し。事と。命不法將感佩不し。要响辭言もあうり。しが筒
 井喉慶進出て。倅的乃老津川玄蕃不親交あま。和と料理

さんと稟一々る不ぞ。右不左恃恠ぞんむると有て。各退席不
 迄をまらる。素より筒井ハ那般の輝不涼切なまは。箸尾宮
 内と使者として。津川が方へ遣をされ。和儀の存を言授ら
 る不ぞ。玄蕃も歎び浅井園田と禪交一つ。主君を練めて和
 順の度と評強一々る不。臆膽の信雄なまは。よき不料理も
 うまべきより。發言らまらる不より。三家宰偉宮内不属て。
 主君原來聊も秀吉を憎まを。まふ不あうむ。歎又不潔修乾
 りらるより。浩る率の破損とありぬ。内府不も今更不。後悔一
 まふ不あり。遠上ハ國家の政道のとありま。案端をもて秀
 吉不恃まらる。置懐あり。遠上旨よりき不陪和あるやう。言傳
 され玉ちるべ一と。詞を竭して恃もらまは。仔細不兼知つ

らまつるして。箸尾宮内ハ鞞るや如く。辞返て順斐不。其由
 と傳達を。入道即地不恭城一つ。秀吉不告らまは。歎むる
 律限りなく。從來望むところありとて。和平の禪交せら
 るつも。秀吉別て宣ひらるやう。遠遣の事ハ後者の邪謀と
 りとつども。佐雄公の殊忽不記まり。這后所心と賢めまは。ま
 那般の強動再度ありとも計りがごとし。解く極底とらる
 めん不ハ。三個の家軍と招傍せ。陳言の旨とも禪り。且ハ秀吉
 が心底をも。稟達をべふおもへばと。使轄をもつて言授らま
 らる。津川浅井園田の門く。那柴殿の書翰を圍て。思緯繪不
 もと歸服あり。これと主君不言状あり。三個齋一大坂不部
 くんとは。响不伝雄疑思まらる。先三日秀吉長嶋不到りし節。

密謀即時不露形せしに、誰が方よりして漏るや、んと、瀧川三郎右衛門と密に召ま、この事をもて密に諜する。不、瀧川も、淑より、津川、併と、執疑、た、ま、ば、備、や、渠、併、が、叛、忠、も、や、あ、り、と、り、ん。這、遣、和、睦、の、事、不、つ、ひ、て、渠、併、が、大、坂、へ、社、こ、を、傳、ふ、也。我、も、備、不、附、副、行、て、渠、併、が、虚、実、を、知、さん、の、と。這、行、と、主、君、不、報、曰、個、相、伴、大、坂、へ、こ、を、知、ま、さ、り、也。然、る、布、ど、不、附、柴、殿、の、唯、慶、の、科、理、不、く、和、儀、調、ん、と、置、懷、三、家、宰、と、招、く、と、り、即、速、來、る、べ、き、旨、あ、り、不、。瀧、川、も、附、副、と、り、と、稟、一、達、一、と、り、乃、ま、ば、先、や、渠、併、不、對、面、せ、ん、と。蜀、紅、綿、の、廳、上、不、そ、れ、ぐ、儀、式、の、准、儀、あ、り、一、淺、野、長、政、石、田、三、成、傍、田、長、盛、大、谷、右、衛、門、の、四人、北、畠、の、家、宰、と、出、迎、へ、一、個、づ、案、内、一、て、待、賓、の、廳、へ

清一、容、叮、嚀、不、饗、應、せ、さ、せ、後、食、を、初、め、く、奔、走、一、り、不、。移、刻、あ、く、淺、野、彈、正、立、出、津、川、玄、蕃、迎、春、不、迎、ひ、秀、右、對、面、こ、れ、あ、る、あ、り、と。上、檀、あ、り、り、る、蜀、綿、の、廳、不、。く、や、く、一、く、伴、不、と、り、此、不、秀、右、禮、服、を、辨、へ、座、を、設、り、て、對、面、せ、り、也。遠、路、の、勞、を、慰、め、玉、へ、玄、蕃、慎、で、天、下、不、博、大、の、切、あ、る。大、將、の、所、変、あ、ま、ば、主、君、任、重、も、あ、ど、り、殊、遠、不、存、む、べ、き。然、と、聊、の、雜、説、不、憑、て、吳、越、の、牟、疇、不、違、む、ん、と、せ、一、と、後、心、の、致、を、と、こ、ろ、不、や、那、般、不、和、後、の、熟、ま、る、こ、と。主、君、ハ、殊、文、俺、們、ま、で、の、大、悅、ハ、言、語、を、以、て、竭、一、ぐ、と、一、。這、已、后、と、も、大、將、の、所、言、不、稱、を、さ、る、り、不、い、ち、也。俺、們、を、所、招、き、あ、つ、て、命、所、ら、ま、さ、り、と、さ、る、べ、一、と、所、を、盡、を、津、川、が、心、底、主、君、の、と、め、と、身、を、謙、卑、り、

りと治むる忠義の料理一廳の這方小薩川一雅。休息して
 在りしが。秀吉津川と出舎して。禪文祠の漏聆中ら小を。
 其をや此期ぞと壁不耳よせ。鼻息もせて聽在り。响不秀
 右殿宮く。命の如く。先達て登城の節はくさぐの所心惱所
 深切の糸くくけな。其捨舎無事不帰りつるも。金足
 下脩ら情不憑まり。其穢今不忘と置く。別て懇念の津
 川氏。何とて然まで。滿宮ある。去来く進まきよ。心彼殘
 らむ源むべ。心ありげの換札不。玄蕃ハそきと玄由属
 うぞ。一途不和睦を調へま。おもひけるも。互膝行。つも。
 身倚む。羽柴殿声と低ふ。秀吉忠義の激心をもつて。
 國と治るもの。佐雄不對。参せ。脚跡略と彼さんや。

乃士が心底の眞実と。掃不監察せらき。よき不陪和とまをるべ
 一。これと怙ん嫌ハ。且下あ。で外不。今正統る。秀佐を
 もて。所家督お績ま。ませ。よも妖道不ハ。それ
 とて。所疑心あ。神文豊信も。進ふべ。斯まで足
 下不。佐雄不。同。意味を悦。さよ
 と。刀柯不。刀と探椅。これハお布えある。來國後不
 り。些小の。進むるありと。與え。奉
 不。と推戴。辭退不。進むるありと。與え。奉
 ま。こ。も。氣惱。一。五ふべ。小臣。和。と。老。バ
 く。辭。謝。して。退出。り。薩川。三。節。各。來。一。雅。ハ。先。刻。より。の
 品。像。と。耳。傾。り。て。聆。在。る。不。叙。首。秀。吉。が。好。と。して。其。機。舎

無事不帰りつるも。食足下侍々情不憑るといひつる一言。倘
 や津川が肉通せしと。率然として疑ふところ不。程心底
 とうち用て。豫らむやと。迎く招き。おしやら密豫せし布どい
 声低りまば。聆取む。これ悪計と豫交あしんと。坊く瓶疑と
 懐くところ不。刀と探て。祝へし極めて。主従と約しつる。
 澄あしん不。儲こそい。圖断あしと。沈吟のうち。おや立
 出る石田三成。おしめの如く。礼を舒て。圍田長門守と披露
 の声不。津川若び壁不身と傍せ。蹠蹠いり不と。窺ふ不。津川
 の如く。換れし。密豫もま。瓶不変らむ。これおしと。祝
 へし。滝川若びうち。踏き。俣い石田も。津川と全し。羽柴
 不結盟せし。檻敵児あり。渠も心容されしと。驚く際

もあく。坊田長盛傳進あし。滝井兼三秀吉の所前へ進
 出。應對豫話し。おし切て。津川圍田不換られ。津川快と。聆
 沈し。儲く三人一奔不。忠義と忘きて。欲不。聴り。人面獸心
 の舉動こそま。唯今おし。聆取し。天よく。主君と助る
 ありと。獨然存在るところへ。大谷吉隆立出て。秀吉對面
 あり。べりま。這方へおし。のであま。蜀綿の廳へ。伴ふし。解
 柴殿宜ひ。ゆるや。這被筒井入道をもて。内大臣へ。陪解る
 と。ころ不。蚤即所託納あし。せら。各遠く。入来させら。布
 が大慶これ。不。是下。おし。心と。添ら。所前より。一。陪
 和あ。と。始終の。換れ。兼。忽し。し。後器も。錫も。む。休。是。あ
 是と。む。り。お。後殿。お。そ。投。せ。ら。ま。し。り。津川。心。中。不。怒

豊臣評八編卷之二

〇十一

と仰て我と歎待不津川脩とい甚と違ふと疎末ありと憤
 然として退出りらぐ休息の廳へ酒肴賜へど勅盃の武士
 も出さず添酌の房も陪らむ悠然として獨飲むそ是も
 轉變二個へハ進交退易山叢海屠儒儀をつくり。響
 人脩奔走して最經く飲食畢り。四個一不退出
 つも玄關へ来りらる。津川淺井園田へハ呻不辭別
 て。澁川不のこ唯獨取合華のあざざればまをく心中憤
 り。不與ふがうち伴て長鳴城不立歸り。澁川が執疑の
 迷より。渠脩三人秀吉不勳力あり。逆忠不相違あくと
 心淡くも思決り。不用ありとて澁川獨途と急ぐ一日先え
 長鳴不着即地不依雄の箭不出迎士扈從の輩と遠ざけ。

言と潜めく言状ましく。這遭大坂の城内不て三人が蹠
 蹠秀吉との對話祝器と祝へく始終と稽く稟呈を
 内府依雄大不驚き儲へ津川脩三人共不我を殺さ秀吉
 不心と據せ先達日の密謀とも渠脩が内通せしものあり
 んと令せ不澁川さんぞうらふ。金渠奴脩が不依ありん不
 方僅ハ霎時もゆるがせ不ありが。津川脩帰来り
 不バ。初般く不し。まふべしとまづ飯田半兵衛。表勅解由
 とひそく不招き。信雄らうら津川淺井園田の三人。叛逆の
 罪ある不因く。埋伏ありて撃べきよし。令属らま。りら
 ま。バ。兩人聆て驚きあぐるも。主君の嚴命背違不方なく。
 準備と志てぞ待後より。其身しひく不澁川が一個の疑惑



滝川一雅が疑惑お起す
信雄諺て家の忠
臣津川淺井岡
田の三幸家と
誅戮

豊臣記八續卷之二

十三

の過失より忠信義徳の良臣として刀下不命と殘さるゝ
 ちるへ。後不憾むべし。嘆むべし。斯とも知む三冢宰へうち同
 伴て日の晡過る頃當ふ。長崎城に着りしに。借し出仕せんと
 しりりと。濠川三冢宰未出來り。密に譚むる由あり。津川
 玄蕃を召るゝあり。ちや快くと急がせし。何處か玄蕃
 近春濠川の隈に隨ふ。真神殿へ入りんと。廊殿に侍
 得る飯田半兵衛成之。遍戸跑放し露出席上立ちありと
 制す。斬着らきて津川の驚き。思役なき事といひ。無雙
 の勇士をこゝも喋がせ。飯田が達腕撃と搏し。席上立ちしも
 せよ。迎喜が。犯せる罪の身不覺えね。殊戮せらるゝ。取留ま
 すと。言らぬ。後宵より。行叫一声。表勅解由が。誓込太

ちの玄蕃助が肩尖より。膝へ羅て。破落流結度研卸り。津
 川の苦と高く叫んで。楹と抜て。を僵る。這動响し。圍田長門守と
 階遠なきども。聆着て。怖となき。不走來ると。圍田長門守と
 呼着つ。左右雙刀一様不斬て。墓ると。田宮丸が。退返さんと。二
 歩三歩。ちりせも。ちりせも。廊下より。數十の力士露出。遁がた
 まし。と。推拒稠。陰謀し。して。榎伏より。長門守も。不覺と。撃
 きて。繞不遮へ。糸ひりり。も。還不遁ること。能た。無慚不
 首と。撃まらる。濠川一雅快と。視徹。内府。佐雄不言。狀し。り。ま
 へ。愚も。これと。悦なき。後の憂と。除きぬと。安途せし
 こそ。不覺なき。

佐雄臨向橋秀吉招池田 属 信輝歸伏

神氣明白ある响へ一燈もよく万世の古性と親る不是り。玄
 氣固死ある幻へ万燈も控足又と看ること能む。然る北畠
 信雄公愴三個の忠臣と害し一卒の損るも知むして。敵
 虜でありらる。津川園田浅井侲の俱從率へ。這強動不務慎
 ち。命幸く逃帰て松嶋の城。星野の城。前安の城の三城ある
 留守の個々不告りる不を強くことおかりとありむ。定む
 撃兵と向べりむ。防禦の準備せむんばありむ。兵具を備
 へて待菟り。備又北畠信雄公へ。まづ松嶋の城をもて。津川
 一雅不脱ふむ。早く彼城を攻臨せと。命せ不滝川。虜
 犯。三子條。勢と率從へ。勢忍松嶋へ推進らる。不彼城中不も
 津川弥三郎。神田治右衛門。中村三右衛門。あんどらる。強強の

勇士率隊して。防戦怠りありらる。進兵の大軍城名へ。
 微勢のそりの交代るべき。彼率もありむ。名ある勇士へ。戦死
 して。遂不落城不迫びり。備又星崎新安へ。三別方より。是
 と攻取り。日ありざる不落城しむ。北畠殿まをく。滝森し。
 備も遠方へ加勢と求め。軍備嚴重不構えり。大坂城不
 へ羽柴殿。早くも。這事と。駭しめさむ。勃然として。瞬らせ。又
 這遣信雄の奉勅へ。不。非道より。と。い。とも。主家ら。ともて
 忽不ち。三家宰。不料理をせて。和と辨へんと。歎むるところ。
 却てこれ。憤り。贖忠士と殺む。い。よくも。つて。天下と棄ふ。
 心底と。是。決着され。真心。死。今。是。然。一。戦。と。遂
 ら。う。へ。不。て。國家と。鎮む。より。ある。他。率。ある。べ。く。先。や

このまゝと法度へ徇軍勢と僅ふさん。這不軍の急あることあり。
 先むる則へ他と制し。後る則へ他不制せしむる。濬列あり
 池田入道信輝父子へ。故右大臣殿重恩の家不して。近來君
 不懇親まれども。万不一も信雄公へ勅力まらるものあり。バ
 容易不平治あり。まづ此人と勅力不ふさば。濬列へ
 ちや掌も濡さる。尾列とても計る不易し。急ぎ視察と達
 ば中と。尾後甚右末つと呼出され。急ぎと命せしむる。尾
 後仔細不拜受ぬと。即地不大坂と馳發あり。張澄疾鞭不
 汗馬と逼着。日と跨ぐを濬列大垣不居る。秀右密儀の
 使者とる。と。案内あり。と。對面を。池田父子來乞と。同不
 甚右末つ形格と整め。主人の内室列不あり。池田殿不

もちや既不。聆しめされいらん。北畠信雄。幼主響権の所
 身として。位官と高ふ。酒色不耽り。武家の驕奢彼人不
 ぶ輩あり。其身不格別の。功勞あり。居る。尾勢の兩國
 と領し。内大臣不任せらる。命是故君の餘福あり。然る
 うへ。慎で。織田家相續の工夫と。幼君秀信と補佐お
 るべき。然らば。我乞不長し。譜代の老臣。殊と容を。バ
 却てこれ。我我伐を。備秀右と。殊して。天下と。極らんと。近
 國の。徳義と。荷擔計。秀軍し。多不。改企あり。同。卷の。風説
 頗不して。既不。天子の。敵圍不達し。秀右不これと。征を。べき。旨
 勅命。教度不。迨ふと。い。ま。勅旨不。應せざる。不。北畠殿
 牙を。く。強乘ら。且。既不。謀殺の。危あり。と。是。今。ハ。勅。從

豊臣評八編卷之二

背違もどろごとし。殊こと小ハ幼主おんさまの所しよ為なをば。近ひんちやう日尾ひんちやう港がたへ軍馬ぐんまと
 発はつし。佐雄さゆう之の犯あやま罪ざいと。鞫とちんと存ぞんむるところあり。然しかも小
 當家あてけハ織田あつせん内孫うちまごの長臣ちやうしん家けあり。これ不周ふしゆて主人しゆじん秀右ひでゆう。御
 も殊こと志しと存ぞんむ。懇志こんしと通とほし言ことばをあり。然しかども這遣このよびの一
 戦いくさハ共とも不織田あつせん家けの剛年ごうねんあるべ。當家あてけの所しよ思慮しりやう兩端りゆうたん不謀
 り。幸しんちやう配はい布ふどく。察さつし。まあ。然しかし。天子てんしの勅命てくめい
 是こゝろ輕かろう。ざら。次つぎ才さいあり。速すみ不本ふほん部ぶの勢せいと率ひらて秀右ひでゆう御ごへ所
 勅てく力りきあり。秀右ひでゆうの悦えつ喜き此こゝろ上あなく。日ひ來この懇情こんじやう空くわう。て。最
 も天子てんしの勅てく不背ふはいりむ。且かつ亦また幼主おんさまの所しよ為なあんぬ。周しゆて使し説せつと
 走はしらせて荷擔かたんと恃たのむところ不ふい。忠賞ちゆうじやうハ四し不隨ふしゆいふて秀右
 より。一ひとく陪はい奉ほうむべし。理りと呈せいてを辭のべり。り。入い道だう父

子こ熱あつく聆きて。續つづ不ふ理りと。ハ思おもへども。國家こくかうの安危あんき即すなは答こたし。がとく。
 家族かぞ不ふ譚たんト。そのう。返へん答こたむ。旨むねと報はうして。尾び後ごと。藤
 亭てい不ふ慈じセ。り。池田いけだ父ちち子こ法はふ士し不ふ暫しばひ。汝なん儕せい座ざ茶ちや不ふ聆きが如ごとく。
 秀右ひでゆう懇切こんせつの情じやうと奔ほんむ。内うち宏こうと原はらふ。一ひと稟れい詔しよ条じょう其その理りあき小
 一ひともあ。ざれども。君きみハ故備こび刑けい信しん秀しゆ公こうより。教まを代ご恩おん顧この長ちやう
 臣しんこれ。故こ右う大臣だいじんの寵愛ちゆうあいも。他家たか不ふ務まりて。今いま斯ごとの如ごとく。榮さかと
 採とり。然しから。と連れん枝しの北きた畠はた殿でん無む道だう殘ざん忍にんり。と。と。ども。これ小
 款くわん對たいする。响ひびハ。織田あつせん家け二代にだいの寵恩ちゆうおんと。忘わす却せつする。不ふ侶りと。るべし。
 とあ。つ。亦また秀右ひでゆうも。幼主おんさまと補ほ佐さして。政事せいじと籌略しゆりやく。天てん勅てく不ふよ
 つ。响ひびと招まねく。ハ。理りあ。つ。つ。朋友あつりゆうの情じやうと奔ほんむ。懇切こんせつの實意じついを
 極ごくせり。い。づ。き。と取とり。む。捨すてん。死し。法はふ士しより。これと判断せんぱんせよ。

と稟をを老臣伊木清兵衛進出言状をくく小臣淺慮と
 回らして世の盛衰を鑑る不時宜不明察ありむんば國家
 と治むる解りし今戦國の中不生まて機變を料て他軍
 とあり自軍とあり更親疎の差別なきハ義もなく忠も
 なき不似れど強不然るべし然るに熟く羽柴と北畠の權勢
 智勇を比察し佐雄公ハ主家不して且大任の公なきこれ
 不隨從ハ唯あるべしと。剛弱不して軍慮不疎く賞罰最も
 晦り色べ。平天下の切思ひもよらむ。又羽柴家の威風を鑑不
 向ふ不致むる輩なく。百戦百勝意の如く切と亡せむ士
 と重んト政事不全く私ふ。天子ども其切勞を賞し給
 て。強不武門の棟梁不等しく。他時天下靜謐の切と達ん

人ハ秀吉あつて外不ハあつト。只惟心を決しむ。他家相
 續の北畠殿を助んより。幼主秀信君を補佐セバ。おと先君へ
 不忠くらんや。然らば羽柴秀吉も。勲力の厚志を感得して褒
 賞他家不増るべし。好を竭して稟しりり不ぞ。勝入斎父子
 此理不屈し。然らば秀吉不勲力せんとして。使節尾後と呼出
 入道とづら返答しりり。羽柴殿日末の懇志を弃玉をん
 時詔る内意の教皆悉不諾受つし。早ぬ先陣の義ハ池
 田勝入相勤めもうまべし。不層なきども君伴父子一族を延
 催し。幼主へ所勲力のたまう。不日不尾濫と平均せしめん
 這段より。羽柴殿へ稟傳しむ。ひねと。倭兵とて。換れし
 乃色べ。尾後大不統悦ふ。即時の所許容這義をもつし。

主君不稟傳へたべ。大慶遠上あるべしと。襟中より牋書
 糸出し。是へ刈地平均己所の傳記あり。所收納ありと。標せ
 へ入道悦んで。披園不尾港二ヶ國の大守するべし。誓符を添て
 秀吉より。甥鏡らむり。不ぞ。父子を親法家臣まで。雀躍を
 して。驍轟せしむ。尾港も今へ使者の役全く。調達して。り
 ば。別辭を報て。途をいそがし。大坂不こそ。帰りに。これ
 より。池田入道父子。真不。羽柴の勅力とあり。まづ。關首不。喬領
 あり。犬山の城を攻臨さんと。專準備せしむ。斯とき。く
 より。郡上あり。遠後。但馬守。重利。赤武藏守。長一。も。羽柴殿の
 自軍不。屬し。勅力同心し。り。不ぞ。秀吉。限りなく。歡悦
 せしむ。色き。不。軍馬を。發せ。べし。と。軍依。兵用。嚴密。不。して。

大合戦不。迄むんと。し。り。り。
 池田信輝父子。臨。犬山城。屬。諸所。放火。
 孤螢光を放ちて。園を放則へ。明星と。同。早。居。忠を。抱て。切
 と。達る。刈へ。大。居。不。等し。池田。信。輝。信。之。父。子。未。日。長。久。子
 不。戦。死し。り。是。れ。も。家。の。断。つ。き。不。へ。至。ら。む。輝。政。も。て。場
 領。不。安。途。を。備。え。と。義。と。して。迷。を。取。り。此。畠。不。服。従。せ。ば。
 滝川。柴。田。が。滅。不。較。ん。長。久。の。謀。強。も。て。截。し。り。不。木
 清。名。來。へ。莫。不。池。田。家。の。柱。礎。あ。ん。ぬ。然。ち。と。不。勝。入。奇。信。輝
 一。子。紀。伊。守。信。之。合。戦。の。准。備。を。嚴。不。揃。え。ま。づ。關。首。不。犬。山
 の。城。を。攻。取。んと。謀。を。回。ら。し。り。り。が。遠。响。羽。柴。秀。吉。へ。ま。づ
 勢。勢。の。自。方。も。つ。り。勢。列。の。敵。を。攻。べし。と。謀。計。を。授。け。ら

此峯の城小麓らせり。此城代へ信雄の宛に中川勘右
 束つろ行あり。武勇絶倫ありといふも。智涉く狐疑心
 源く二日と持て落城しり。茲小椋川平左束つといふ
 者あり。中川勘右束つがとめ小銃せりて暫く寔流し
 りりうち。這關降し逆びり。時こ是得たりと上方勢
 小池加ちり峯の城小推進つも命と惜まざり戦ひり。小
 既小落城しり。小池代高行本城ありり。犬山へ落
 遁んと從者もたはる。只一騎尾列と當て馳返る小銃り
 疲勞の身小逼りて池尻ありり。業陰小馬と休めて息
 助在り。然る小椋川平左束つハ峯落城と云るより。も
 城代高行此地と遁きて犬山へ落行人こと必定ありと。

明察をりどく。這响と云ふ。いづら我鬱憤と晴をなま
 と馬小も息と次さばこそ。驀地中川が跟追て。犬山の方へ
 馳りり。彼業陰不て登くも視着号呼蕙て搦て蕙り。数合小
 盈とむ中川を馬より下へ殺却あり。遂小首とぞ採りり
 り。備又犬山の城中小へ中川高行が叔父ありり。中川
 入道清盛主といふ者城と安属りり。留守しり。漸く峯
 の放名軍逃來て注伸しり。不早くも中川高行が池尻小
 おひて懸きりり。聆ゆるといふといふも。出家あかすも
 強勇不敵の清盛主弱る自方と懸ま。紀故推進おバ微
 塵小せんと。防禦の仕部嚴重あり。這响池田勝入育ハ。
 夷武善守と首として。遠足家へも傑合せ。故地の蹠蹠いり。

あつんと細佐と出して宛せり。不意の城落去不追ひ。大将
 中川言行の梶川がとめ不撃せり。注伸と駱と奔しく。
 時を宜りてお発べし。大垣不ハ次男輝政あり。伊本
 清兵衛を留守なき。本遠及ハ先陣次男後逼なき。べ
 不言御。遠兵衛て三子孫孫嫡子紀伊守信之と先陣と
 して。あ日ハ三月十三日東天いま。曉跡らぬ。大垣の城と
 進発あり。豆戸の津と推滞り。夕陽守地と掠む。頃大
 山迎く。弛急る。此より。暮び午候を行て。故地の舉止
 と捜らせり。不意お三更と過る。刻既。午候の軍士弛歸り。
 城中あんの佐部もなく。十分園新の態あり。駱と奔
 池田父子雀躍ありて。悦繞。其ハ推進よし。一同不。城

と望んで弛出せ。先陣紀伊守信之ハ。父不劣らぬ。活猛なき。バ
 月の光不炬燵と用ひむ。正斜不馬と進ませ。城の西關へ進
 づく。や否や。敵と突と揚り。勝入齋も。繼て推進喊と
 合せ。急統と喪る。不意。城中不ハ。浩る。深敷不。思後。古も。故
 と受慌忙。立ち惑ひ。盆不足と投む。あき。ハ。腰巻と脊へ
 被るも。あり。太刀不火索と扱まん。と。む。ハ。把把て。戟り
 と。肴。つ。名も。あり。て。右。傾。左。倒。不。喋。初。一。乃。と。留守。職
 あり。り。り。清。益。主。心。利。り。勇。傍。あ。き。バ。蚤。く。も。鞆。鞆。不。身
 と。控。め。采。幣。推。探。弓。鳥。銃。の。兵。不。指。揮。し。て。區。く。の。虎。口
 と。固。め。させ。矢。銃。を。惜。ま。ず。防。ぎ。り。り。不。意。進。兵。も。こ。き。不
 小。息。ハ。遮。ら。せ。梳。ら。ひ。り。り。と。先。陣。信。之。烈。し。く。指。揮



豊臣評八統卷之二

廿二

てふぐろく正斜不揃出せば。後まどもの。と元相半左衛門。
 渡辺敷負。荒尾四郎右衛門。あどつゝ。猛勇。銃尖そろへて
 突て登り。毘来る矢石を突ともあさむ。死憤を發して
 接りら。ちどふ。難なく。圓風を推破り。佛と喚て亂入し。乃
 ち。防禦の。兵士。孰あつそ。止拒抗輩やあるべき。四角八
 面不岸。毒一りり。と。清藤主只一騎。鏖断し。つも踏止り。
 前る。自名を。銃懋ま。方僅は。ちや。逃るとも。遁るべき
 路。あるべし。と。決ても。死を。べき。命あ。背。瘡。受て。嗤え
 きんより。敵。不向ふ。斬。頻。せよ。嗚。不。つけ。と。呼。を。り。喚
 たり。陰の。荒。袂。も。火。不。あ。る。な。り。り。近。よ。る。敵。を。搦。伏。こ。
 磯。然。と。し。て。亂。動。し。ける。が。池。田。の。勇。士。十。有。餘。人。銃。尖

列連て。獨。發。を。捨。不。滴。發。主。分。身。へ。槍。九。彈。鞍。を。た。ん。ま。ま。と。く
 二三。人。擡。揚。ら。ま。て。を。頻。り。り。り。終。年。五。十。八。歳。あり。と。ぞ。
 大將。撃。ま。て。從。名。使。率。孰。う。ん。敵。と。ふ。もの。あ。る。べ。し。中。へ
 撃。ま。あ。り。を。へ。落。失。各。が。ま。り。く。あり。ゆ。ま。り。を。池。田
 父子。へ。城。不。棄。投。即。時。不。凱。歌。を。唱。り。り。お。ぞ。發。首。より。と
 悦。繞。り。翌。十。四。日。の。蚤。晨。お。り。城。下。の。四。民。を。集。娘。し。祝。金
 あ。ま。と。分。与。へ。法。率。不。志。む。く。酒。筈。を。施。し。暫。く。法。軍
 を。休。ま。せ。り。り。刻。を。なく。喪。武。藏。守。遠。後。但。馬。守。も。來。居
 あり。捷。軍。を。賀。し。り。り。ち。ど。ふ。然。バ。迎。迎。を。放。火。して。敵。の
 銳。氣。を。扼。ぐ。んと。曉。を。バ。三。月。十。五。日。犬。山。の。城。を。發。馬。し。
 小。牧。山。の。西。北。より。兵。士。を。部。て。民。家。不。火。と。燧。程。八。方。へ

豊臣記八編卷之二

七三

細作と出。遠見遠聞とせさせつも敵の奇変とよくさぐ
 らせ。佐勢不進退虚実と謀。号合寸隙ありり。ハ
 あつたま池田猪入齋が老切の器量を逞巧しき。され
 ば敵火の煙法取不むびり。怒焰都率とも烘たると
 うごぐふむり。横却しく焼沖り。所不散山不燃と
 りて。小牧山不充満しりま。加勢のひとく。
 ままや池田の老入送不。目と醒させんと。二三条猪小牧
 とめぐりて推出せ。猪入齋まきくより。今日ハもやあ
 ままであり。疾退舉と指揮しり。不ぞ掃りて。戦た
 んといふもあまど。固く制して隊軽くも。犬山の城へ
 退陣しり。ま。敵勢とま。推進しり。日も夕天不
 ぬ

ちりりま。戦ふとも益なうんと。落合の卿不陣を破
 ぬ

繪本豊臣熱切記八編卷之二了

